

医薬品安全管理研修会 2016 年秋季

テーマ: **医薬品事故対策としての多方面からの取り組み**

(第1回) 会期 2016年11月12日(土) 午前10時～午後4時50分、 受付開始:午前9時
(第2回) 会期 2016年11月13日(日) 午前9時～午前12時、 受付開始:午前8時30分
会場: 東京大学法文1号館2階25番講堂 (東京都文京区本郷7-3-1) 地下鉄本郷3丁目駅から徒歩10分

厚生労働省2007年3月26日省令により、薬局開設者はその従業員に対し、医薬品安全管理上の指定課題に関する年2回程度の教育研修会の開催を義務されました。本セミナーは、各病院薬剤部や薬局開設者による医薬品安全管理研修会に対し、基礎となる参考資料を提供するものです。参加者には2日分の受講証をお渡しします。

本プログラムは学会認定「高度医薬品安全管理者」資格制度での必須科目の一部ともなります。

受講対象者: 国際医療リスクマネジメント学会ないし日本医療安全学会の会員、医薬品安全管理者、薬剤師、医師、看護師、医薬品製造・輸入・販売業者、その他

プログラム

2016年11月12日(土)

午前10時～10時50分 「SQCに基づいた薬剤業務のデータ活用術 ～医薬品安全の視点から」
濃沼 政美 (帝京平成大学薬学部教授、信州大学病院臨床研究支援センター顧問・特任研究員)
午前11時～11時50分 「医薬品安全のための病院での医薬品情報の活用」
鈴木 信也 (神奈川県警友会けいゆう病院薬剤部)
午後1時～1時50分 特別セッション(新規薬剤) 「スポレキサントの適正使用」
医師(交渉中)
午後2～2時50分 特別セッション(新規薬剤) 「オプジーボの適正使用(他の分子標的薬との比較)」
山田 宇以 (聖路加国際病院リエゾンセンター副医長)
午後3時～3時50分 「転倒予防対策を見据えた睡眠薬の選び方と使い方」
大谷 道輝 (東京通信病院副薬剤部長)
午後4時～5時 「薬薬連携による外来化学療法の安全性向上に向けた取り組み」
徳丸 隼平 (横浜市大センター病院薬剤部)

2016年11月13日(日)

午前9時～9時50分 「臨床で特に注意すべき薬物間相互作用の知識」
百 賢二 (帝京平成大学薬学部准教授 前筑波大学病院薬剤部講師)
午前10時～午前10時50分 「医薬品の包装形態の問題点と安全への改善策」
菅野 浩 (済生会横浜市東部病院薬剤部課長)
午前11時～12時 「薬剤師が実施できる研修医・看護師の医薬品事故防止対策の試み」
大沢 幸嗣 (東京通信病院医薬品安全管理者)

参加申込締め切り: 2016年11月7日

定数(600名)になり次第に、申込受付を閉め切ります。

参加申し込み方法: 下記のホームページをご覧ください。参加費を掲載しています。

担当事務局

国際医療リスクマネジメント学会本部
(〒)113-0033 東京都文京区本郷4-7-12-102
(電子メール) head.office02@iarmm.org
(Tel/Fax) 03-3817-6770

ホームページ <http://www.iarmm.org/J/DRUG2016Nov/>